

平成30年度 学校自己評価システムシート (県立川口工業高等学校)

目指す学校像	地域産業の発展に寄与できる、心豊かな技術者の育成
--------	--------------------------

重点目標	1 生徒の実態に対応した授業の工夫と改善を進め、中退者を減少させる。 2 充実した学校生活と進路実現のために、生徒指導及び進路指導の充実を図る。 3 開かれた学校づくりを目指し、地域との連携を深めると共に学校情報を積極的に発信する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	4名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標					30年度評価(2月1日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<ul style="list-style-type: none"> 学校全体の組織的な取組や1学年での少人数授業、学習サポーター、日本語コミュニケーションアドバイザー等による支援を行い、退学者が減りつつある。 生徒の学習意欲や学習内容の理解を深める授業の工夫・改善を一層進め、生徒とのコミュニケーション能力を高めることにより、さらに退学者の減少を図ることが課題である。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒個々の実態に即した教科指導を実践し、授業の理解度を高め欠点保有者数を減少できたか。 生徒個々の状況を把握し、支援が必要な生徒に対する指導をSC等と協力して組織的に実践し、退学者数を減少できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①教科指導方法の工夫や評価に係る研修をとおして、評価方法の見直しや授業改善を進める。 ②少人数指導や学習サポーターおよび多文化共生事業等の活用により、生徒にきめの細かい指導を行い、学習意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①各学期の欠点保有者数が減少したか。 ②学習アンケートから学習理解度・満足度が前年度比10%以上向上したか。 	<ul style="list-style-type: none"> 共通認識を持ち、生徒個々の実態に合わせた教科指導を行った結果欠点者数は昨年とほぼ同数である。 ①②少人数展開、学習サポーター等を利用しきめ細かい指導を行った結果、欠点者数は昨年と変化はしていないが、学習理解度、満足度は増加している。 生徒個々の状況を把握し組織的に取り組んでいるが、退学者を減少させることは出来なかった。 ①②学年、学科、教科、SC、特別巡回支援員等と連携し多様化する生徒に対応したが退学者を減少させられなかった。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 学習サポーターや多文化共生推進員等を活用し、きめ細かくわかりやすい授業を実施するとともに現在進行している評価の研修を行い、さらなる欠点者数の減少を目指す。 多様化する生徒に対する情報を共有して、生徒個々にあった支援をSC、特別巡回支援員、多文化共生推進員と学年、学科等が連携をして退学者の減少に取り組む。
2	<ul style="list-style-type: none"> 学校生活に取り組む意欲と態度を育成してきた結果、基本的な生活習慣を身につけた生徒が多くなっている。 「地学地就」の理念に基づき地域と連携して自己の将来像を具体的に抱かせることにより自己実現を図る進路指導を継続する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校活動に取り組む意欲が育成され、生徒指導件数、遅刻者数の減少や部活動加入率が向上したか。 様々な地域と連携した活動や進路行事をとおして、生徒自ら自己実現を考える機会が与えられ、始動を早くし、自分の希望する進路決定ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①学校と家庭が連携した登校指導などの取組をとおし、生活習慣の改善を図る。 ②生徒会やHR活動をとおして、部活動加入を促し、部活動の活性化を図る。 ①地域企業によるインターンシップや高校生ものづくり最前線体感事業等をとおして各種産業への関心を高める。 ②各種進路指導行事をとおして、早い段階から進路選択の自覚を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ①遅刻者が約20%以上減少したか。 ②生徒指導につながるような事柄を未然に防ぎ生徒指導件数を減らすことが出来たか ③部活動に臨む姿勢が良くなったか。また、年間を通して部活動の加入率が50%以上になったか。 ①地域企業との連携をとおして、地元および隣接する地域への就職者数が増加したか。 ②各学年に応じた進路ガイダンスにより、生徒が自らの進路に具体的なイメージを持ち、進路未定者数が0名になったか。 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率は昨年とほぼ同数であるが、遅刻者はやや増加傾向である。 ①②部活動加入率は、昨年度と同様ほぼ50%である。また、部活動に臨む姿勢は向上している。生徒会の朝の挨拶運動、PTA等の協力を得ているが、遅刻者数は、やや増加している。 地域と連携し自己実現を考える進路指導を推進できた。地元及び隣接する地域への就職者は昨年とほぼ同数である。 ①②1年生の早い段階から進路指導の自覚を促し地域と連携し各種の進路ガイダンス等を行った結果、各種産業への関心が高まった。2名の未定者が就職活動中である。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 特定の生徒が遅刻を続ける傾向にある現状がある。学校と家庭が連携をして、遅刻減少を目指す。生徒会を中心に、HP等で部活動の取り組み等をアピールし、加入率の上昇を目指す。 生徒の意識向上を目指し工場見学等の機会を大切にしている。インターンシップを有効に活用し、自己実現に向けてキャリア教育を推進する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 地域と連携した開かれた学校づくりを継続・発展させ、地域に根ざした専門高校としての役割を果たしている。 本校の特色ある取組をHP等でタイムリーに発信し、地域からの理解を深めることにより、工業教育に興味・関心の高い生徒を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の企業、自治会、小中学校等との積極的な交流を進め、積極的に参加することができたか。 地域と連携した取組を様々な形で情報発信し、本校のPRができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域連携活動をとおして、地域からの信頼を高める。 ②地域交流事業をとおして、小中学生に工業技術に対する興味・関心を高める。 ①HPや学校説明会等により学校の情報を発信することにより生徒、保護者、教員に工業高校を知っていただく。 ②体験入学等をとおして、工業教育に興味・関心の高い入学志願者を集める。 	<ul style="list-style-type: none"> ①地域との連携活動に生徒が主体的に参加し、意欲的に取り組めたか。 ②地域交流事業の参加者数が昨年度以上に増加したか。 ①HPの閲覧回数が20万回以上になったか。 ②学校説明会等の参加者数が昨年度と同様10%以上増加したか。 ③入学志願者数が各科とも1.0倍を超えたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域に根差した専門高校として積極的な交流をすることが出来た。 ①②インターンシップにおいては、前年を上回る評価を受けている。また、公開講座では申し込み人数は昨年度より増加したが、天候不順により参加者数はやや減少した。 情報発信をタイムリーに行い本校のアピールが出来た。 ①②③HPの閲覧回数は目標を超え、学校説明会等の参加者も昨年度比10%以上増加している。新聞による本校入学希望者数は昨年度より増えているが現時点では目標に届くことは出来ていない。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 今年度、公開講座において多種の取り組みが出来た。それを生かして来年度以降も、ものづくりの工業高校の魅力の発信を継続して行く。さらに中学生のニーズに合った講座を展開する。 工業高校の魅力である資格取得等のアピールをタイムリーに行う。また、中学校での説明会に積極的に参加し専門高校の魅力伝える。また、中学校の教員に本校の特徴や工業高校の魅力を積極的にアピールし生徒募集につなげていく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成31年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 国語、数学、英語の教科での少人数展開による授業は、生徒個々に対応することが出来るのでとても良い取組だと思う。パワーポイント等を使用して授業を行ったり、授業の場所、話題等を工夫することにより生徒の意欲、関心が高まっていることは評価できる。また、主権者教育にも取り組んで欲しい。 退学者減少に向けて、高校2年生が大事であり、生徒に目標、目的を待たせ学校全体でサポートするようにして欲しい。 遅刻は社会では認められないので、遅刻「0」を目指して学校全体で取り組んで欲しい。また、挨拶の励行はとても大事である部活動においては先生方の頑張りにより部活動加入率は維持されているが、3年生が引退すると人数が減少してしまうので、一つの方法として、3年生引退後に部員を増やす取組みをしても良いのではないかと。多様な生徒がいるなか、就職率100%は素晴らしいと思う。企業に定着させるために、本人に気持ちに合った企業を選択させ、3年間の追跡調査をして欲しい。 公開講座では、多種多様な取り組みが出来ているように思う。地域に根差した工業高校を目指して学校全体で取り組み、入試倍率の目標を達成していただきたい。 HPの閲覧回数は、目標を上回っていることは良いことである。学校全体の情報発信もきめ細かくし資格取得状況および部活動の成績等についてこまめにHPにアップし工業高校の魅力アピールしていただきたい。 	